

2019. 9. 8. 聖霊降臨節第14主日礼拝式説教

ルカ福音書講解説教

聖書：ルカによる福音書5章12-26節

『あなたの罪は赦された』

今朝朗読された聖書箇所、ルカ福音書5章12節から26節は二つの出来事が記されており、2回に分けて読むこともできますが、敢えて1回で読むことにしました。

最初の話は、全身重い皮膚病にかかった人と主イエスとの出会いの話です。

そして17節からの話は、中風を患っている人を男たちが床板に乗せて連れてきて、主イエスと出会わせた、という話です。この二つの話には、いろいろな共通点があります。もちろん違うことも多々あるのですが、今朝はその共通点に注目して、み言葉に聞いていきたいと思います。

共通点の一つ目は二人とも、社会的にははじき出されていた、ということです。重い皮膚病にかかると、隔離されて、一般の人たちと一緒に生活することができなくなります。社会性を奪われてしまいます。中風の人も、重い皮膚病の人ほどではないにせよ、はじき出されていきます。二人ともその症状が外見からわかるということもあり、はじき出されていました。それだけでも大変な苦勞を背負わされているのに、その上二人とも、その病はあなた自身の罪のせいだ、という烙印を押されていました。悪霊に取りつかれているとか、汚れている、という烙印を押されるのです。それが共通点の二つ目です。社会的に隔離された上で、お前は罪人だ、だからこのような因果の中に置かれているのだ、と決めつけられ、まるで最後通告でもあるかのように押し付けられるのです。

そして共通点の三つめは、この二人の病人がそのような中で、自分の方から主イエスに出会おうとした、ということです。重い皮膚病の人は、自分の方から主イエスに声をかけています。そもそも、主イエスのもとに群がる人々の中で、主イエスに声をかけるためには、自分から町に行き、主のそばに行かなければならない。そして自分から「主よ、みこころならば、わたしを清くすることがおできになります。」と声をかけた。あなたが望まれるなら、あなたはわたしを清くすることができる、これは非常に大胆な、主イエスへの求め、願い、あなたによって清くされたい、という意志の表れです。

もう一人の人、中風の人は男たちに運ばれてきました。友人なのか、親族なのか、

とにかくこの人のことを思う人たちが運んできたのです。あまりの人の多さに家の中に入れなかったために、屋根に上り、瓦をはがして、病人ごと床板に乗せたまま降り降ろしたのです。なんとしてでも主イエスにこの人を出会わせたいと思ったその意志が伝わってきます。確かにこの中風の人の意志は聖書には書かれていません。しかしこの人はまちがいなく自分のために床板を担ぎ、主イエスに出会わせたいという人々の意志の中にいたのです。

主イエスは運んできて、つり降ろした人たちの信仰を見て、とあります。いったい何が信仰なんだ、と思う人がいると思います。人の家の屋根に上がって、瓦まで剥がして、友人思いはわかるけれど、それは熱意とかであって信仰とは別なもの、と思う人もいるでしょう。しかし主イエスはこの人たちの中に信仰を見てくださっている。それが大事なことです。他の人が何と見ようが、主イエスが信仰とみてくださっている。それは、中風の人をイエスの前に連れ出し、主イエスに出会わせようとする、その一事です。主イエスに会わせたい、主イエスに願いを聞いてもらいたい、主イエスのもとにお連れしよう、それが信仰だと、主イエスはそう見てくださる。

するとこの二つの話は、皮膚病の人の主イエスへの求め、願いと、中風の人を支えた人たちの主イエスに願う願いとの中で起こった出来事であり、その二人をそれぞれに受けとめ、応えた主イエスによる出来事と、と言えます。

主イエスは中風の人に向かって、何よりもまず、「人よ、あなたの罪は赦された」といわれました。おそらく当の本人にとって、病の癒しよりも、まず罪の赦しを語る主の言葉に、当初驚いたのではないかと、思います。しかしやがて、ずしんとくる言葉だったのではないのでしょうか。病気故に社会からはじき出され、罪人としての烙印を押され、悪霊に取りつかれているとか、汚れていると言われ、まさに罪の重荷に苦しんできたのです。お前は罪人だ、ということで存在が否定されてきた人。その人に向かって主イエスはあなたの罪は赦された、と言われたのです。主イエスは中風という病気が罪による因果だとは思ってこういわれたわけではありません。重い病気になっているのは、その人の罪が重く、健康な人は罪が軽いのだ、というように見てはおられない。病人であろうが、健康であろうが、人間誰でも避けようもなく、神の前で罪人であることは確かなことです。

しかし、主イエスがこの世に来られたのは、罪の赦しを与えるためでした。十字架にかかっていかれたのは、その罪人がなお神に赦されて、神と共に生きるためです。

た。あなたは罪人。しかしあなたは赦されている。わたしがあなたを担う。病人であろうが健康なものであろうが、あなたの罪は赦されている。だから神はあなた共に生きる。どんなにあなたが隔離されていても、はじき出されていても、神はあなたと共に生きる。あなたは神の恵みの中にある。あなたは赦された罪人として、神さまの大事な一人として生きていけばいい。そのことをキリストは宣言された。重い皮膚病の人に手を差し伸べて、その人に触れて「清くなれ」と言われたのは、あなたは罪赦されている、汚れているのではない、神の赦しあいの中にある、そのことを語っておられるのです。その罪の赦しという目に見えないわざの中で、病気の癒しという奇跡をキリストはなされた。だから病気の癒しは罪の赦しの一つのしるしなのです。

中風の人への「あなたの罪は赦された」という発言を聞いて、主イエスに対する警戒心を強めたのが、律法学者やファリサイ派の人々でした。こいつは神でもないのに、罪の赦しを語る。これは明らかに神への冒瀆的な態度だ。と内心思い始めるのです。律法学者たちの言うのは当然のことです。彼らの知る範囲では、神に対する罪を赦すことができるのは神だけだからです。

主イエスは「あなたの罪は赦された」というのと、「起きて歩け」というのと、どちらが易しいか」と彼らに尋ねられます。

「罪赦される」ということと「起きて歩け」ということとどちらがたやすいか、と問いかけた主イエスの意図はどっちがむずかしいのか言ってみなさい、ということにあったのではなかったと思います。罪の赦しがむずかしいことははっきりしていました。「罪の赦し」は神にしかできないことであり、神の独り子が十字架の代償を通してしか与えることができないものです。それに比べれば、「起きて歩け」と言うことは主イエスにとってむずかしいことではなかったでしょう。

しかし主イエスはあえてこの二つのことを並べることで、罪の赦しがその人に向かって語られ、その人が罪の赦しを受け取る中で、「起きて歩け」という新しい歩みが可能になっていくんだということを語りたかったのです。

人々は主イエスの中に奇跡行為者を見ようとしていました。重い皮膚病の人の癒しのときも、そしてこの中風の人が歩きだしたときも、その奇跡にわざにも感嘆したのです。一方で律法学者たちは罪の赦しなどと言い出してけしからん奴だ、ということがあった。そのどちらに対しても主イエスは違うといいたかったのだと思います。違う。わたしはあなた方に罪の赦しを語る使命がある。これこそわたしの使命だ。あなたも神の恵みの中にあり、神はあなたがどんなものであれ共に歩んでくださる。神はあなたとどんな時も共に生きて、歩んでくださる。それを告げ知らせることこそ主の使命でし

た。この罪の赦しの福音を宣べ伝えることの中で、主はその一つのしるしとして、病の癒しという奇跡を、起こしていかれたのです。

だから主イエスはここで、まず病人に、「罪の赦し」を宣言し、ご自分が罪の赦しの権威を持っていることを語り、その上で、「起き上がり、床を担いで家に帰りなさい。」と言われたのでしよう。

神があなたと共に生きてくださる。神の前で罪を重ねるあなたを、御子の十字架において赦し、あなたと共に生き歩もうとしてくださる。そのことを主イエスは一人一人に告げ知らせる。その中で、歩み出して生きなさい、あなたの生活の場所で生きていきなさい、キリストはそういわれた。

人々は、癒しの奇跡に目を奪われ、驚き、感嘆した。しかしまこと驚くべきは、感嘆すべきは、神の意志による御子イエス・キリストの十字架による罪の赦しなのです。

D a t a : 聖霊降臨節第14主日礼拝式説教

讃美：前446，後432

新生教会礼拝堂